

# わかもの就労ネットワーク



2017年11月17日、東京中小企業家同友会の会員を中心に立ち上げた、NPOわかもの就労ネットワークの総会が開催されました。会場には、50人を超える企業家、弁護士、若者支援関係者、研究者、そして当事者の若

者といった多彩な参加者が集いました。イベントでは、前提として若者の現状を知ってほしいと若者支援機関のスタッフのコーディネートのもと、職場体験を活用した若者も自身の体験を語ってくれました。

2017.12

## 中小企業家同友会のネットワークで若者を育てる

(25) 第3社会 第45421号 (第二種郵便物認可)

### 扉を開けて

ルポ ひきこもり

第4部「再起」③

### 社会の担い手育てる



## 変わるべきは企業の方

2200人で構成する東京中小企業家同友会の有志を中心に、4月に設立した。少子高齢化と景気回復で人手不足が深刻になり、東京では有効求人倍率が2倍超に。「求人広

「5年、10年、いや20年かかるかもしれない。社会の担い手を、今から育てないといけない」。2017年11月中旬、東京都内の会議室。企業やひきこもり支援の関係者が集うシンポジウムで、NPO法人「わかもの就労ネットワーク」理事長の森下彰(67)が穏やかに、力強く語った。ビル管理を手掛ける中小企業の会長だ。

同NPOは、企業経営者約

NPO法人「わかもの就労ネットワーク」のシンポジウム。中小企業の経営者らと、ひきこもり当事者の就労支援について意見を交わす。11月、東京都内

告を出しても、即戦力が集まらない」中、働きたくても働けない人たちに目を向けた。ひきこもりの当事者には、就労に関する相談や職場体験の機会を提供する国の事業があるが、受け入れ先の企業を探るのが課題だ。そこでNPOは主体的に協力企業を開拓し、支援を必要とする人たちとつなぐコーディネーター役を目指している。一人一人の

企業でうまくいかなければ、他の企業を紹介することも可能だ。まだ取り組みは始まったばかりだが関心は高く、他県の経営者団体からも問い合わせが寄せられているという。「同じ経営者同士であれば、受け入れに当たって配慮すべき点などを具体的に説明できる。行政による依頼より効果的です」。同NPO理事長、デザイン・印刷業「まるみ」(東京都新宿区)社長の三嶋岐子(49)は説明する。

従業員10人の同社では、以前からひきこもり経験者の就労体験を受け入れ、数人を探用してきた。その一人、井原 効率性を追い求め、困難を抱えた人を排除するのではなく、一人一人の事情に合わせて時間をかけて育てる。「それが担い手確保の近道ではないか。変わらないといけないのは企業の方だ」。そんな思いを強くする。(敬称略)

「普段相談している若者支援機関の紹介という安心感がある」と語ってくれたのは、NPO法人教育サポートセンターNIREに通う若者。続いて、NPO法人文化学習協同ネットワークの仕事づくりの現場に参加する若者は、「そうしたコネでこの現場までたどり着いた。今はニートとしては不本意ながらも(笑)、週4日は通ってきている。これで生きていけばいいんですけど…」と働き方そのものへの問いを投げかけました。

### まずは、若者の問いに 応える現場を開拓する

今総会は、年度途中に立ち上がった団体の、残りの期(2018年3月まで)の活動計画について承認を得るものです。残り4カ月余の当面の取り組みについて確認されました。

■受け入れ企業の開拓  
東京中小企業家同友会会員企業の間で若者受け入れについての議論を進め、新たな受け入れ企業を開拓する。

■企業見学会および受け入れ企業への訪問サポート  
若者が企業に見学に行き、職場の雰囲気や見学会を実施するとともに、既に若者を受け入れている企業への訪問を引き続き実施し、若者・企業双方のサポートを行う。

■新宿および世田谷のサポステとの連携の具体化  
三鷹・練馬のサポステとの連携を行っているが、さらに新宿および世田谷のサポステとも連携した取り組みを進めていく。

■企業経営者向け企画の開催  
サポステ説明会や若者との交流会、職場体験受け入れ講習会を実施する。

# 熱い思いが語られた…12月理事会発言から

総会後はじめての12月の理事会では、改めて本NPOの理念・ビジョンがどんなものなのか、思いを出し合う機会を設けました。  
今後活動を広げていくときに、発信源としての理

事会参加者がどのように私たちの活動を咀嚼し、発信していくのかということとはとても重要だと考えたからです。11人の参加者からの発言の一部をご紹介します。

## 対象としての若者像

### 働く意味を見失う時代

新卒一括採用というルートに乗れなかった、あるいは業績主義競争に疲れ心が折れて退職をしてしまった若者にとって、就職は高い壁となります。採用されにくいだけでなく、そもそもどんな仕事を探したらよいか悩み、ついには「自分は何がしたいのか」という問題にも突き当たります。同時にこの問いは、「なぜ働かなければならないのか」といった問いを呼び込んでしまいがちです。そうして立ちすくんでしまった若者たちが、若者支援機関に訪れます。

### 若者とともに働く職場へ

眼目は、若者を受け入れ育てることによって働き方改革を展望することです。つまり、若者のニーズに応えながら、会員企業の働き方の相互確認・学習をしていくことで、社員を育て・ともに働いていく機能を拡張していく取り組みだと思えます。

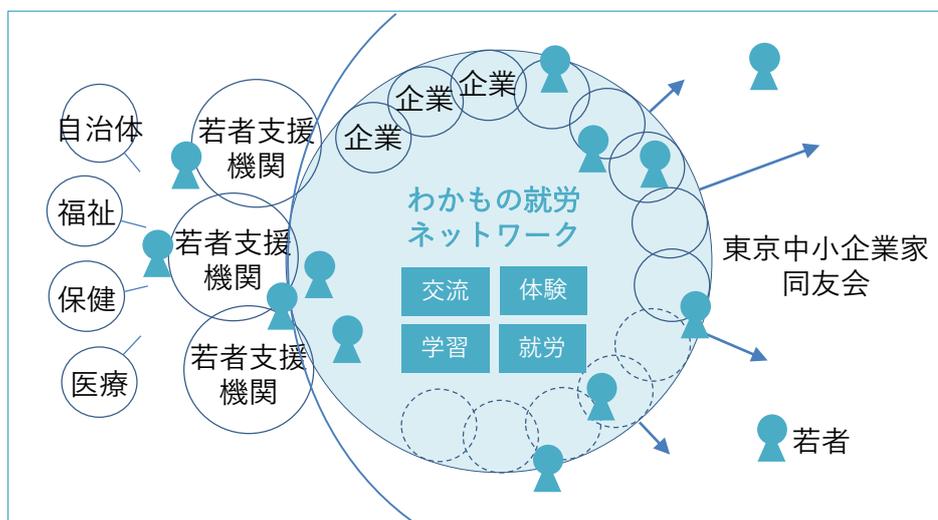
### 働くこと・企業のあり方を問い直したい

若者を受け入れるということは、単に仕事を効率よく覚えられるのではなく、そもそも、「就労」をどのように捉えているかということも考えていかなければと思えます。働いていることを実感できて

いるかどうか、働き方がその人の魅力を高めてくれているか、それらが職場の共有財産になっているかどうかなどについても考えていきたいと思えます。それがつまり、若者が育つ環境になるかどうかということかもしれません。そうしたことを、若者のニーズも踏まえてつくる必要がありますよね。

### 持続可能な社会をつくりたい

今、中小企業に必要なことは、自分のところだけ良ければ良いということではなく、支え合うネットワークをつくることです。そのなかで若者を受け入れ、育てることに価値を置いていきたいと思えます。それが、結果的に個性と多様性ということが尊重される持続可能な職場ではないかと考えます。そうした地域・社会・文化ができた暁には、若者が私たちのフィールドに入ってきてくれると信じています。これは、10年、20年後にどんな企業・社会になっているのかという話でもあります。そうした視野の下に、このNPOを立ち上げ、活動していくことは、ひいてはそれぞれの事業活動をどう持続可能にしていくかということにも必ずつながっていくでしょう。



## お知らせ

### 理事会について

毎月原則第1金曜日に理事会を開催しています。関心をお持ちの方は、事前にご連絡いただければ参加いただけます。2018年は1月12日、2月2日、3月2日です。場所は株式会社光陽メディア第2ビル（神楽坂駅より徒歩5分）。

### 印刷関連企業との意見交換会

都内の印刷関連会社にお声掛けさせていただき、若者を受け入れるということについての意見交換会を実施します。2018年1月24日16時より株式会社光陽メディア第2ビル（神楽坂駅より徒歩5分）にて。

わかもの就労ネットワーク  
総会報告

発行 2017年12月8日

編集 特定非営利活動法人  
わかもの就労ネットワーク  
事務局

Mail [info@wakamono-work.net](mailto:info@wakamono-work.net)

HP <https://wakamono-work.net/>